

文化・芸術

「パリの床屋」

1924年、油彩・カンバス
72・7センチ×60・6センチ

清水登之 (1887~1945年)

腰に手を当てながら夜の街に輝く床屋のシヨウインドーを見つめるご婦人。次のヘアスタイルを考えているのでしょうか。それとも流行を確認しているのでしょうか。パリのおしゃれな活気ある街の様子が伝わってきます。

清水登之は画家になるため、単身渡米し、働きながらアート・スチューデント・リーグで絵を学んでいました。米国で高い評価を受けるようになった清水は、次にフランスへと渡りました。米国でもフランスでも、清水は人々の何気ない日常に目を向け、市民生活に寄り添うように愛情深く作品に描いています。その後、37歳で帰国し、亡くなるまで日本画壇でも活躍しました。

大川美術館は現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館となっております。休館中はこちらの名画の扉や、大川美術館公式SNSで作品紹介などを行ってまいります。海外旅行を含め、なかなかお出かけができない今、作品を通じて異国情緒を楽しんでいただけたら幸いです。(池田)

名画の扉

休館中の大川美術館から

